研究テーマ　　転倒転落アセスメントスコアシートを活用した離床センサー解除項目の明確化

病　院　名　　医療法人喬成会　花川病院

演　　者　　○村田彩華(看護師)　澤田敦子(看護師)　大島まゆ子(看護師)

概　　要

【研究背景】
回リハ病棟は認知症高齢患者が多く、ADL向上を目指す病棟であることから、転倒リスクが高くなる。転倒対策として離床センサーを使用していることが多く、センサーは身体抑制と同様の影響が考えられ、早期に解除することが望ましい。一般的に転倒転落アセスメントスコアシートの点数で転倒危険度を評価し、センサー設置基準を作成しているが、解除する基準は先行研究であまり見当たらない。
【研究目的】
転倒転落アセスメントスコアシートを用いて、看護師の経験知や直感に頼らないセンサー解除の基準を作成ために必要な項目を明らかにする。
【研究方法】
対象者：A病院に令和2年6月～9月に入院した、センサーを使用している患者65名
調査項目：年齢、疾患、入院日、退院日、センサー使用開始日・解除日、転倒転落アセスメントスコアシート9項目
調査方法：センサー設置時と解除時または退院時に転倒転落アセスメントスコアシートを評価した。分析方法：退院前にセンサーを解除できた群を解除群、それ以外を非解除群として、対応のあるｔ検定で前後比較した。また、解除群に対して、マクネマー検定を実施した。
倫理的配慮：患者及び家族に対して研究目的、自由意志による参加、研究において個人が特定されるような表記は使用しないこと、研究以外にデータを使用しないことを文書と口頭で説明し了承を得た。
【結果】
センサー解除群38人、非解除群27人で、解除時または退院時の結果ではセンサー設置時の転倒転落アセスメントスコアシートの点数が有意に改善した。また、センサー設置時と解除時の転倒転落アセスメントスコアの点数差を解除群・非解除群で比較した結果、解除群の点数が有意に改善していた。マクネマー検定の結果では、転倒転落アセスメントスコアシートの「支えがなければ立位不安定」「車椅子・杖・歩行器が正しく使えない」「靴が正しく履けない」「衣服の着脱に介助が必要」「NCを押さない、押せない」の5項目で有意差を認めた。
【考察】
解除群は非解除群より有意に転倒転落スコアシート点数の改善があった。点数改善はセンサーを解除するか否かに影響を及ぼすことが判った。また有意差を認めた5項目は立位保持やバランス能力、歩行補助具や車椅子、靴の正しい使用が解除の要件だった。ナースコールは解除時に40％が押せるようになっていたが押せなくても解除になっていた。ナースコールは解除の必須ではなかった。
【結論】
転倒転落アセスメントスコアシートの点数を改善させること、転倒転落アセスメントスコアシートの「支えがなければ立位不安定」「車椅子・杖・歩行器が正しく使えない」「靴が正しく履けない」「衣服の着脱に解除が必要」「NCを押さない、押せない」の5項目がセンサー解除の基準となることが示唆された。
【引用参考文献】
1)高間聖恵，三浦友貴，五十嵐圭子：回復期リハビリテーション病棟における転倒転落アセスメントシート項目の検討．日本看護研究学会雑誌，42 (3) ：421，2019
2)高間聖恵，田村由美子，松田洋子：回復期リハ病棟における転倒転落アセスメントシートの開発と妥当性の検証．回復期リハビリテーション病棟協会、研究発表会2021
3) 中川洋一，三宮克彦，上田厚ら：多施設回復期リハビリテーション病棟における脳卒中患者の転倒要因と転倒状況-転倒リスクアセスメントシートの開発-，Jpn J Rehabil Med 2010